

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 澤村昭典

論 文 題 目

Abnormal Circadian Blood Pressure Profile as a Prognostic Marker in
Patients with Nonischemic Dilated Cardiomyopathy

(非虚血性拡張型心筋症における予後指標としての血圧概
日リズムの意義)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

碓氷章彦



名古屋大学教授

委員

菅波孝祥



名古屋大学教授

委員

石山 彰一



名古屋大学教授

指導教授

室原豊明



論文審査の結果の要旨





本研究では非虚血性拡張型心筋症患者を対象として、血圧の概日リズムが予後規定因子となるかを検討した。その結果、夜間血圧が日中血圧よりも上昇する riser 型の血圧概日リズムは、心臓関連死の独立した規定因子であることが明らかとなった。また、これらの患者群において、夜間血圧降下度は血清クレアチニン値、及び 24 時間蓄尿中ノルアドレナリン濃度によって規定されていることが確かめられ、非虚血性拡張型心筋症患者における血圧概日リズム異常の形成には交感神経活性の賦活化が重要である可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 交感神経の賦活化が血圧概日リズムの異常の形成に寄与しているとする、心不全治療薬として広く使用されている β 遮断薬が血圧概日リズムの是正にも有用である可能性がある。もしくは、血圧概日リズムを確認することによって、 β 遮断薬の使用量が過不足を判定できる可能性がある。
2. ナトリウム摂取量が体液過剰の原因となり、交感神経の賦活化に寄与する可能性が先行研究においては示されている。しかし本研究対象におけるスポット尿での尿中ナトリウム排泄量を検討したところ、血圧概日リズムとの関連は認めなかった。よって、本研究対象においてはナトリウム摂取量が交感神経の賦活化に寄与している可能性は低いと考えられる。
3. 本研究においては、心不全の比較的安定した外来通院患者を対象として、検査入院を行うことによって各種パラメータの評価を行っている。よって、心不全の状態の不安定性による患者背景のばらつきは低く抑えられていると考えている。
4. 虚血性心疾患を多く含む心不全集団を対象とした報告においても、本研究と同様に血圧概日リズムの異常を呈する患者割合が増加することが確認されている。よって、血圧概日リズム異常は心不全患者において、注意して観察すべき項目の 1 つであると考えられる。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	澤村昭典
試験担当者	主査	碓氷章  坂孝祥  丸山彰一 		
	指導教授	室原豊明 		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 血圧概日リズム異常を呈する心不全患者に対する β 遮断薬の使用について
2. 血圧概日リズム異常の形成におけるナトリウム摂取量の影響について
3. 結果の解釈における心不全の状態の影響について
4. 心不全における血圧概日リズム異常の有病率について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、循環器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。